

愛知県の地震対策について

平成17年3月に、国の中央防災会議は、東海地震及び東南海・南海地震について、その被害想定をもとに、平成26年度までに被害を半減するための具体的な数値目標や達成時期を定めた「地震防災戦略」を策定しました。愛知県においても、それを受けて平成19年度から平成26年度までの8年間で計画期間とする第2次あいち地震対策アクションプランを策定し、愛知県が行った被害想定を基に死者数及び経済被害額の半減を「減災目標」として定め、全庁をあげて地震防災対策に取り組んでいます。

具体的には、住宅の耐震化の促進や土砂災害防止施設の整備、緊急輸送道路の橋梁、河川・海岸の堤防の耐震化、企業が地震被害にあった場合の業務継続計画（BCP）の策定等さまざまな施策を進めており、また、協議会としても今年度は「家具や書庫等の転倒防止」を推進テーマに取り組んでいます。

今回取り上げました東海地震・東南海地震・南海地震の3連動地震について、平成22年4月に国が公表した県別の被害予測と、東海地震・東南海地震が連動して発生した場合の愛知県の被害予測とは大きく異なるものではありません。しかし、3連動地震が発生した場合、被害がこれまで考えていたよりも広範囲に及ぶ可能性があるため、広域的な救助・救援体制のあり方など見直しが必要な部分があるかもしれません。まずは、第2次あいち地震対策アクションプランを着実に進めるとともに、今後の国の動向を踏まえ、必要に応じて3連動地震に対する愛知県の対策を検討していきます。

あいち防災フェスタ(あいち防災協働社会推進大会) / 防災&ボランティアフォーラム 平成22年11月7日(日)同時開催



神田知事(協議会会長)あいさつ



大規模AED講習会の様子

防災協働社会を実現、推進していくためには、「自助」「共助」「公助」の三つが連携していくことが必要不可欠です。その一環として県民のみならず、自主防災会、地域の事業所、学校など防災・災害ボランティアの方々が増え、防災対策の充実強化を図るため平成22年11月7日(日)に、愛・地球博記念公園(モリコロパーク)において、関係団体が一堂に会して「あいち防災フェスタ」を開催しました。

また、災害時のボランティア活動について関心を深めていただくため、「防災&ボランティアフォーラム」も同時に開催しました。当日は天候にも恵まれ、約6000人の来場者がありました。

会場には、あいち防災リーダー会、市町村自主防災会等の防災関係のブースはもちろんのこと、半田商業高校や愛知工業大学、日本アマチュア無線連盟やなごや防災ボランティア等のボランティア団体などのブースもあり、参



防災貢献団体表彰受賞団体のの方々



瀬戸市立効範小学校パトンド演技の様子

加体験型の企画を楽しんでいたいただきました。オープニングセレモニーでは、防災貢献団体の表彰が行われました。その後、ステージ上では、豊田市消防音楽隊とカラーガード隊の演奏と演技の披露や、NPO法人愛知万博記念災害・救急医療研究会による150人規模での大規模AED講習会、瀬戸

市立効範小学校パトンド部の軽快なパトンド演技等が行われました。また、ふだん体験することができない、災害用伝言ダイヤル171や、緊急地震速報の体験コーナー、EV(エレベーター)閉じこめ救出体験車や、地震体験車等もあり、楽しみながら学んでいただきました。

防災貢献団体表彰

愛知県では、日頃から防災活動に積極的に取り組み、地域防災力の向上に貢献している団体に対して、防災貢献団体表彰を行っています。平成22年度は次の3団体が表彰されました。

- 瀬戸市 山口連区自治会様
 - 安城市 高棚町自主防災会様
 - 幸田町 海谷区防災会様
- 表彰を受けた各団体は、それぞれ特色ある活動をされていますが、今回は、幸田町海谷区防災会会長の加藤賢さんにお話を伺いました。

海谷区防災会の組織について教えてください。

幸田町海谷区防災会は、防災会の会長を区長が兼ねており、それぞれの組の組長等始め全員から成り立っています。

平成21年度に初めて土砂災害を想定した避難訓練が行われていますが、そのきっかけは何ですか。

深溝学区の中でも、特に海谷区は土砂災害が発生しやすい急傾斜地が9箇所もあります。また、自宅の裏が急斜面の山で、土砂災害を受けやすい位置に住宅などが多く存在します。前区長の前川さんから、幸田町内ではどこも土砂災害を想定した訓練をやっておらず、行ったほうがいいということと、何度も会合を重ねて行われたものです。

それは、どれくらいの方が参加し、どのように行われましたか。

訓練には、海谷区203世帯中133世帯、160名の参加がありました。世帯で考えれば約7割の方が、参加されたことになりました。訓練は大型台風による集中豪雨がきたという想定で、避難勧告後

いかに早く安全に、そしてみんなが避難所へ避難できるかという訓練です。

どのような効果がありましたか。

隣どうしがお互いに確認しあうことで、助け合いの気持ちが高まったことと、自分の隣にどういう人が住んでいるということが再確認できたという効果がありました。

この訓練は平成21年9月に行いましたが、平成22年6月には、同じ深溝学区内の里区でも土砂災害を想定した避難訓練が行われ、その取組みが周りに広がったという効果もありました。

平成17年度から地震を想定した防災訓練を行っているということですがその内容を教えてください。

この訓練は深溝学区内の全4地区が合同して行っています。今年度は平成22年10月31日に行いました。この4地区の自主防災会を始め、自警団、消防団の方も参加してもらい、地震体験車の体験、煙道体験、消火訓練、消防署職員による講話などを行いました。



海谷区防災会会長 加藤賢さん



平成22年10月31日に行われた防災訓練の様子